

自己評価

結果報告書(2018年度)

平成31年3月29日

学校法人共生学園

新横浜歯科技工士専門学校

新横浜歯科衛生士専門学校

目次

1. 学校の教育目的と方針	2
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2,3
3. 評価項目の達成及び取組状況	4
(1). 教育理念・目標	4
(2). 学校運営	5
(3). 教育活動	6,7
(4). 学修成果	8
(5). 学生支援	9,10
(6). 教育環境	11
(7). 学生の受入れ募集	12,13
(8). 財務	14
(9). 法令等の遵守	15
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	16

1. 学校の教育目的と方針

本法人は、歯科医療の一端を担う歯科技工士・歯科衛生士として、必要な専門知識及びその応用を教育すると同時に、社会のために役立つ歯科技工士・歯科衛生士を養成することを目的としている。

学校法人 共生学園の教育方針として、1本の歯を通して医療という社会的な重要性を考え、知識や技術面において優れているばかりでなく、豊かな人間性と協調性に富んだ社会人としての自覚と常識を身につける。

歯科医師と歯科技工士と歯科衛生士、そして患者様の利を求めることで社会の利となる関係性を追求する共生の思想を持った人材を育成することを方針としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1－国家試験合格率 100パーセントの維持

2－カリキュラムの整備

3－就職・進路決定率の向上

4－入学者数の拡大、退学者・停学者の削減

5－雇用状況の安定

1－国家試験合格率 100パーセントの維持

【新横浜歯科技工士専門学校】

卒業認定者4名中、3名が国家試験を受験し、3名が合格した。合格率100パーセントの目標は達成した。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

卒業認定者42名中、42名が国家試験を受験し、42名が合格した。合格率100パーセントの目標は達成した。

2－カリキュラムの整備

【新横浜歯科技工士専門学校】

2019年度入学者から時間制から単位制の移行に伴い、授業計画を全て整備した。

シラバスに於いては、精査が必要と考えられる。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

従来のカリキュラムのシラバスの再整備に取り組んだ。主要三教科(予防処置・診療補助・保健指導)については、精査が必要と考えられる。

3－就職・進路決定率の向上

【新横浜歯科技工士専門学校】

4名中、2名が就職し、1名が進学をした。進路未定の1名は留学生であり、ビザの期限に伴い帰国した。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

42名中、37名が就職をした。進路未定は5名いるが、全員 2019 年4月からの就職活動を予定している。

4－入学者数の拡大、退学者・停学者の低減

【新横浜歯科技工士専門学校】

2019 年度入学者数は 10 名であった。前年度より減少となった。改善が必要である。

今年度は、退学者が 1 学年で 3 名 2 学年で 1 名、計4名が退学した。精神的な問題が2名・進路変更が2名であった。保護者との連絡は蜜に取れていたが、学生本人の意思希望により退学となった。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

2019 年度入学者数は46名であった。定員は確保したが、指定校推薦での入学者数が減った為、学生募集方法に改善が必要である。

1 学年は休学者1名、退学者が3名となった。休学者1名は復学し、留年となった。退学者について1名は進路変更、1名は精神的な問題、1名は金銭面の問題での退学であった。

2 学年は退学者が1名となった。進路変更による退学となった。

学校として、欠席・遅刻の指導を徹底し、欠席・遅刻の多い生徒には個別に面談を行っている。

また休学・退学前には保護者を交えた面談を重ね、最終的には学生本人の意思を尊重する。

5－雇用状況の安定

【事務局】

本年度より、事務長が交代した。社会保険労務士と職員の就業規則の見直しをはかった。

新横浜歯科技工士専門学校については、学生数が定員に満たない為、経営に課題がある状況が続いている。雇用状況の維持の為に、学生募集に特に力を入れたい。

新横浜歯科衛生士専門学校に関しては、勤続年数2年未満の職員で構成されている状況である。学校内の情報共有に朝夕のミーティングを実施し、学生のみならず職員の状況把握や、改訂された就業規則による環境の整備に努めたい。また、当法人として自己評価の公表を今年度から実施し、活動の透明性を図り、問題点に真摯に取り組むことを継続していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	2
2. 社会の動向を踏まえニーズに沿った教育を行っているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
3. 学校の理念・教育目標・育成人材像の周知は十分か		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	2

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

創立時より「啐啄同時」を教育理念とし、医療従事者に相応しい礼節と身だしなみを具え、整理整頓を心がけ、向学心を持ち続ける学生を育成人材像としている。

職業教育の特色としては、CAD/CAM や色彩学など指導要領にない先端技術や関連知識の教育や特殊な技能を有する非常勤講師や歯科関連企業による実習を取り入れて業界のニーズに応えている。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

『一般教育』『専門教育』『人間教育』を柱としてカリキュラムを組んでいる。特に『人間教育』に関しては『接遇』に加え、日常の挨拶や清掃や立ち振る舞い等、人間として医療人として、学生としての資質に重点をおいた教育を行っている。また社会のニーズを捉え、従来のBLS講習に加え、多職種連携の講義等、新たな試みを行った。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.3 点

教育目標の周知に関しては、入学時の説明および試験結果発送時に行っているが、今後、更に機会を増やして保護者の理解を得るよう努めていきたい。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 2.3 点

当法人の職員経験を有する者が少なく、教育理念や教育目的を明確に職員間で共有することが不十分であった。

理事長・校長の判断に頼る面が多かった為、主体性を持って教育理念・目的の達成に努めていきたい。

(2). 学校運営

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 教育目的等に沿った運営方針が策定されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	2
2. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	2
3. 組織体制について運営組織や意思決定機能は、明確化されているか、有効に機能しているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
4. 人事、給与に関する規程・コンプライアンス体制等は整備されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
5. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3

現状

- ・学校運営方針は年度初めの教職員会議において各部署の事業計画・目標及び業務の円滑化を図るための業務分掌の説明がされる。
- ・年度の事業計画は、各部署にて事業計画を検討、8月に開催される理事会・評議員会において決定され、教職員会議をにて教職員に周知される。なお、年12回開催される教職員会議で各部署の進行状況が明確に報告されている。
- ・人事・給与については、就業規則・給与規定に基づいて決定されている。
- ・コンプライアンスについては、各種法令に基づいて教職員に周知されている。
- ・教育活動等の詳細な学校情報については2019年度よりホームページにて情報公開を行った。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.6 点

情報公開について、ホームページでのシラバスや学校基本情報の公開が2018年度はできていなかったが、2019年度の公開には対応をした。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 2.8

職員の入退職が多く、事業計画について職員間で引き継ぎと共有ができていなかった。安定した組織体制とは言い難い状況が続いたが、規則は整備されている為、コンプライアンスは守られている。

情報公開について、ホームページでのシラバスや学校基本情報の公開が2018年度はできていなかったが、2019年度の公開には対応をした。意思決定後の計画的な実行の為、職員の雇用継続が当面の課題となる。

(3). 教育活動

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
2. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
3. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
4. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成見直し等、外部による評価が行われているか	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
5. 授業評価の実施・評価体制はあるか	新横浜歯科技工士専門学校	2
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
6. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に示されているか	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
7. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
8. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
9. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	4

10. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導 力育成など資質向上のための取組が行われているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

カリキュラムは、養成所指定規則に基づいた授業時間数を十分に確保し、学生が実技教育を理解しやすいよう、講義を先行して知識を学び、その後、実習を通して理解を深められるように編成している。職業教育に関しては、歯科関連企業と連携した実技教育を取り入れており、企業の特徴を生かした知識や技術の習得を行い、学生個別の評価まで実施している。

成績評価に関しては、学生便覧の配布と説明によって明確にしている。

教員の研修については、教材開発のために必要な技術の講習を定期的実施している。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

カリキュラムは、養成所指定規則に基づいた授業時間数を十分に確保し、学生が実技教育を理解しやすいよう、講義を先行して知識を学び、その後、実習を通して理解を深められるように編成している。

職業教育に関しては、歯科関連企業と連携した実技教育を取り入れており、企業の特徴を生かした知識や技術の習得を行い、学生個別の評価まで実施している。

成績評価に関しては、学生便覧の配布と説明によって明確にしている。

教員の研修については、多職種連携に備え関連法人の老人ホームや歯科医院と連携し研修を定期的実施している。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.3 点

授業評価については、教科によって行っていることもあるが、全教科は実施していない。早急に評価方法を策定し、実施していく。外部からの評価については、現状、理事会のみとなる為、文部科学省のガイドラインを参考に学校評価を行う体制を整える。2019 年度よりシラバスをホームページで公開する。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 3.4 点

外部からの評価については、現状、理事会のみとなる為、文部科学省のガイドラインを参考に学校評価を行う体制を整える。2019 年度よりシラバスをホームページで公開する。超高齢化社会での社会的役割を踏まえ口腔咽頭吸引演習や嚥下内視鏡検査見学、一次救命処置実習を行っている。今後は、更に多職種連携の実践的なカリキュラムを増やしたい。また、1年次より国家試験を意識した教育を行っていききたい。

(4). 学修成果

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 明確な基準に基づいた実践能力及び学習能力を単位履修の認定基準にしているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
2. 資格取得率の向上が図られているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
3. 就職率の向上が図られているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
4. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	2
	新横浜歯科衛生士専門学校	2

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

歯科技工士資格の取得率は、2年間を通して着実な技術の習得と学科の復習を継続して行っており、例年ほぼ100%である。

就職率については、学生数を十分に上回る求人が寄せられており、就職希望者は100%就業している。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

歯科衛生士資格の取得率は、昨年に引き続き100%を維持している。

就職率は2018年3月卒業者が77%だったのに対し今年度は84%となった。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.5 点

卒業生の卒後の社会的な評価およびキャリア形成などの把握は、一部の卒業生に限られる。

卒業生の実態調査の実施などを通して、社会的な評価およびキャリア形成などの把握に努め、学校の教育に活かしていく。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 3.2 点

卒業生の卒後の社会的な評価およびキャリア形成などの把握は、一部の卒業生に限られる。

卒業生の実態調査の実施などを通して、臨床現場での活動状況や要望を把握したい。

(5). 学生支援

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
3. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか		
	新横浜歯科技工士専門学校	4
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
4. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	4

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

進学や就職に関する支援体制は、担任による進路面談、就職担当者による学生の就職希望地域やキャリア形成のための助言および学生の就職活動を把握し教員間で情報を共有している。

学生の相談に関しては、担任が窓口となり相談しやすい環境を提供している。

学生の健康管理については、毎年健康診断の実施および近隣の総合病院との提携により、学生の健康状態の把握と疾病への迅速な対応を行っている。学生の経済的な支援体制は、入学時の成績優秀者に対する減免制度、公的な奨学制度や民間の教育ローンの斡旋を通じ、学費負担の軽減を行っている。

卒業生への支援体制としては、同窓会組織である校友会の活動を全面的に支援するとともに卒業生の再就職や開業の際の相談や助言などの対応を行っている。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

就職に関する支援体制は、担任による進路面談を通じ、事務長と連携して学生の就職支援を行っている。

学生の生活相談に関しては、担任が窓口となり相談しやすい環境を提供している。また学生の状況報告は朝夕のミーティングで職員間での共有を行っている。

学生の健康管理については、毎年健康診断の実施および近隣の総合病院との提携により、学生の健康状態の把握と疾病への迅速な対応を行い、症例によって学生保険利用の指導を行っている。

教育環境に関しては修繕の必要に応じて適宜、対応している。また今年度より、緊急連絡システムを用いて、災害時の連絡手段体制を備えた。

高等学校からのインターンシップや、高校生の職業体験プログラムを実施している。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.7 点

保護者との連携がやや希薄である。保護者との連携を強め、本校の教育に対する保護者の理解を得られるよう改善していく。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 4.0 点

就職希望者の就職指導に対しては個人面談を通し、教務・事務が連携をして行っている。

卒業時に諸事情で就職を希望していない者の卒業後の支援や状況確認が必要である。

(6). 教育環境

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
3. 防災、安全管理にたいする体制は整備されているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3
4. 防火訓練を実施しているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

【新横浜歯科衛生士専門学校】

施設・設備は、より良い設備環境の中で学習できるよう計画的に整備している。

大規模災害や火災に備え、消防・避難訓練を年1回実施、災害対策マニュアル、災害対策用品(備蓄)、緊急連絡網(教職員・学生)を整備し、必要に応じて見直しを行っている。防火管理責任者も配置し、消防設備点検も年2回行っている。

また、AED(自動体外式除細動器)を設置し万一の場合に備えている。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 3.0 点

在校生は全員学生傷害保険に加入しており、校内における不慮の事故に備えている。また希望者は別途、学生総合保険にも加入している。

教務歴の長い教員が多いため学内での災害対策は確立したものがあるが学外での緊急時マニュアルの確立が不確定な為、早急なマニュアル作成が求められる。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 3.0 点

在校生は全員学生傷害保険に加入しており、校内における不慮の事故に備えている。また希望者は別途、学生総合保険にも加入している。

新横浜歯科衛生士専門学校は、30年度より安否確認システムを導入し、災害への対策を

強化することが出来たが、運用についてはまだまだ改善するところがありマニュアル作成が求められる。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 学生募集活動は、適正に行われているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	2
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか		
	新横浜歯科技工士専門学校	3
	新横浜歯科衛生士専門学校	3

現状

【新横浜歯科技工士専門学校】

学生募集活動は、歯科技工士養成所指定規則、指導要領、学則、個人情報保護法の遵守ならびに文部科学省からの各種法令・通知を守り適切に行っている。

教育成果の伝達についてはパンフレットやホームページ、その他広報媒体を通じ、できるだけ多くの情報が客観的に分かりやすく伝わるよう努力している。

学納金に関してはできるだけ無駄を省き、徴収した入学金、授業料、実習費が学生自身に還元できるよう常に努力している。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

学生募集活動は、歯科衛生士養成所指定規則、指導要領、学則、個人情報保護法の遵守ならびに文部科学省からの各種法令・通知を守り適切に行っている。

教育成果の伝達についてはパンフレットやホームページ、その他広報媒体を通じ、できるだけ多くの情報が客観的に分かりやすく伝わるよう努力している。

学納金に関してはできるだけ無駄を省き、徴収した入学金、授業料、実習費が学生自身に還元できるよう常に努力している。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科技工士専門学校 2.6 点

定員割れが続いていたにも関わらず、学生募集活動を強化することが出来ていなかった。30年度途中から活動方法の改善を行っている。技工士の職種が国家資格であるという認識の低さが全体としての学生募集低下につながってきていると考え、高校へのガイダンスを強化し直接学生と会話する機会を増やす様に努力していく。

◆ 点検及び今後の課題 新横浜歯科衛生士専門学校 3.6 点

今年度も定員を確保することが出来たが退学者、休学者を数名出す結果となった。入学前になるべく教員が高校のガイダンスに足を運び信頼関係を築いていくことが大切であると考えるとともに教育環境のさらなる強化に努めていきたい

(8). 財務

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか		
	学校法人共生学園	3
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		
	学校法人共生学園	3
3. 財務について会計監査が適正に行われているか		
	学校法人共生学園	3
4. 財務情報公開の体制整備はできているか		
	学校法人共生学園	3

現状

予算については各担当部署より年度予算書を計上し、前年度と比較検討したうえで理事会・評議員会で決議しており、予算執行については事務局で一括管理している。

財務については学校法人会計基準に則って月2回、税理士による事務処理状況調査、年1回の会計監査を行っており、5月の理事会・評議員会において会計監査報告を行っている。

財務情報の公開については、私立学校法に従い財務諸表を常備し、関係者から閲覧の要請があった場合には、平常業務日に閲覧できる体制を整えている。

また2019年度より財務情報をホームページにて公開する。

◆ 点検及び今後の課題 学校法人共生学園 3.6 点

新横浜歯科衛生士専門学校に関しては、今年度も定員を確保することができた。

新横浜歯科技工士専門学校に関しては、定員の4分の1となり、経営面からも厳しい状況が続いている。

今後の課題として、新横浜歯科衛生士専門学校は、定員確保はもとより、一人の退学者も出すことなく教育環境の質の向上を図っていく。新横浜歯科技工士専門学校は、技工士業界全体の認知度向上につとめる。

法人全体として、パンフレットやホームページ、その他広報媒体を充実させることはもとより、出来る限りガイダンス等で学生と会話する機会を増やし、他校との差別化をはかっていく。

(9). 法令等の遵守

評価項目 適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1

1. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか		
	学校法人共生学園	3
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		
	学校法人共生学園	3
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか		
	学校法人共生学園	2
4. 自己評価結果を公開しているか		
	学校法人共生学園	3

現状

専修学校設置基準及び養成所指定規則、その他法令等を遵守し、適正に運営している。また、申請、届出についても所管先に遅滞なく行っている。

平成17年に個人情報保護に関するガイドライン、項目別個人情報管理マニュアルを作成し、その重要性を認識し保護を行っている。在校生に対しては、入学後のオリエンテーションにおいて説明し、取引業者に対しても情報の保護についての啓蒙を行っている。

また、2019年度より自己評価を学校ホームページ上に公開する。

◆ 点検及び今後の課題 学校法人共生学園 2.7 点

生徒の個人情報(写真等)を広報等に掲載する場合には、事前に承諾書に記載してもらい学校で適正に管理をしていく。

自己評価については、今年度よりホームページでの公表も行い、積極的に当法人の活動報告を行っていく。

4. 今年度の目標や計画の総合的な評価結果

【新横浜歯科技工士専門学校】

生徒募集を重点課題として取り組んでいきたい。その為にガイダンスや高校訪問をより積極的に行い、大家入学者数の獲得につなげたい。また新横浜歯科衛生士専門学校との連携も強化し、技工士の認知度向上に真摯に取り組んでいく。

評価結果から保護者との連携が弱い点が浮き彫りとなったが、専門教育を受ける年代の保護者に対して必要な連携の方法を模索し、有効な手立てを講じていきたい。

またシラバスについても2年制から3年制の移行期にあり、まだ精査が必要な為、より充実したカリキュラムの構築を行いたい。

【新横浜歯科衛生士専門学校】

1年間の体験入学の結果から今年度はリピーターの数減少が目立った、指定校入学者の減少の原因ともえられるので、次年度は体験入学のリピーター数を意識して生徒募集に取り組みたい。

職員の入退職の多さが目立った一年でもあった。職員の安定した雇用体制が急務となる。